

日の出が丘

【学校教育目標】 本気で学び 思いやりのある子

【重点目標】 主体的に「考動」する子



「主体的に『考動』する子」を目指して 2

伊東市立大池小学校長 力石和彦

夏休みの直前から、新型コロナウイルス感染症の第7波が到来し、各ご家庭においては、その対応に苦慮なされたことと思います。2学期の始業式を迎えた現在でも、未だ曜日ごとや日ごとの感染者数記録が更新されるなど、収束の見込みはたっていません。

本校におきましては、引き続き、3密の回避や手指消毒といった基本的な感染予防対策を徹底してまいります。感染状況によっては、各種行事等の中止や延期、実施方法の変更などを考えていきます。その際は、必ず事前にお伝えいたします。ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

昨年度末の学校評価から、大池っ子のよさは「優しさ」、課題は「主体性にやや欠ける」ということが明らかになりました。4月のお便りや、各種会合でお話させていただいていますが、課題の解決を目指し、本校における重点目標を「主体的に『考動』する子」としました。1学期においては、コロナ禍で大がかりな実践は難しかったのですが、学習において自己決定の場を用意したり、達成しやすい目標を用意し、達成したら称揚したりする取組に力を入れてきました。

今年度の1学期の学校評価を見ると、昨年度末の評価と同様に、主体的な行動が身に付いているとは言えない数値となっています（改めて学校評価特集号として保護者の皆様にはお知らせします）。主体的な行動は短期間のうちに身に付くものではなく、低学年のうちから長い年月をかけて育成すべきものであることはわかっています。だからこそ、学校と家庭が手を取り合い、同じ目標に向かい協力していくことが必要です。そこで、子供たちの主体性を育むために、ご家庭でお願いしたいことがあります。決して難しいものではありません。いくつかの言葉掛けを変えてみていただきたいのです。

まずは「ごめんね」を「ありがとう」に変えることです。もちろん「ごめんね」も大切な言葉です。明らかに自分に否がある時は、子供に対してもしっかり謝らなければなりません。しかし、多くの場合は「ありがとう」という言葉に変換できるのです。仕事で忙しく、夕食の準備に時間がかかり、子供を待たせてしまった時に、何と言いますか。

「遅くなってごめんね。」

というのが圧倒的に多いでしょう。そこを、

「待っていてくれてありがとう。」

に変えてみてください。「ごめんね」には罪悪感を持たせる一面があります。一方「ありがとう」は感謝を表す言葉です。相手を喜ばせてくれたという意味です。待っていた子供はその言葉で自分の行為のよさを知り、自信を持ちます。その自信の積み重ねが自己肯定感を高め、主体性に結びついていくのです。「留守番してくれてありがとう」「手伝ってくれてありがとう」など、ほとんどの「ごめんね」は「ありがとう」に変換することができるのです。

2つ目の言葉掛けは「あなたはどうしたいの？」です。子供がどうしてよいかわからず悩んでいると、ついつい「〇〇にしない」という決定をしてしまいがちです。忙しく時間のない時は特にその傾向があるのではないのでしょうか。中には、

「お母さんどうしたらいい？」

と聞いてくる子供もいるかと思います。そこではもちろん、

「あなたはどうしたいの？」

と聞き返してあげることです。子供が自立するための言葉で、自分の意見や考えをもっともよいことを認識させます。返答に窮した時は、「〇〇と〇〇ではどちらにする」と選択をする機会を与えると、次第に自分で決定できるようになります。

上述した言葉掛けは、担任から子供たちへも同じ様に取り組んでいきます（取り組んできています、が正しいかな）。是非ご協力のほどよろしくお願いします。

引用文献：「子どもの自立を 遅らせるひと言 助けるひと言」大門昌代著

